

炭酸水素ナトリウム「ヨシダ」

日本薬局方

炭酸水素ナトリウム

Sodium Bicarbonate

貯法：気密容器、室温保存
使用期限：外箱等に記載

承認番号	(61AM)1748
薬価収載	1961年1月
販売開始	1961年1月
再評価結果	1980年3月

※【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

ナトリウム摂取制限を必要とする患者(高ナトリウム血症、浮腫、妊娠高血圧症候群等)[ナトリウム貯留増加により、症状が悪化するおそれがある。]

【組成・性状】

1. 組成

本剤1g中、日局炭酸水素ナトリウム1gを含む。

2. 製剤の性状

本剤は、白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、特異な塩味がある。

本剤は水にやや溶けやすく、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本剤は湿った空气中で徐々に分解する。

【効能・効果】

(経口)

下記疾患における制酸作用と症状の改善

胃・十二指腸潰瘍、胃炎(急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)

アシドーシスの改善、尿酸排泄の促進と痛風発作の予防

(含嗽・吸入)

上気道炎の補助療法(粘液溶解)

【用法・用量】

炭酸水素ナトリウムとして、通常成人1日3～5gを数回に分割経口投与する。

含嗽、吸入には1回量1～2%液100mLを1日数回用いる。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

(1)重篤な消化管潰瘍のある患者[胃酸の二次的分泌(リバウンド現象)により症状が悪化するおそれがある。]

(2)腎障害のある患者[ナトリウム貯留による浮腫があらわれることがある。]

(3)心機能障害のある患者[ナトリウムの貯留により、症状が悪化することがある。]

(4)肺機能障害のある患者[呼吸性アルカローシスになるおそれがある。]

(5)低クロル性アルカローシス等の電解質失調のある患者[症状が悪化することがある。]

2. 相互作用

(1)併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
マンデル酸ヘキサミン・ウロナミン腸溶錠	本剤はヘキサミンの効果を増強させることがある。	ヘキサミンは酸性尿中でホルムアルデヒドとなり抗菌作用を発現するが、本剤は尿のpHを上昇させヘキサミンの効果を増強させる。

(2)併用注意(併用に注意すること)

本剤は制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄にも影響を与えることがある。

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
大量の牛乳、カルシウム製剤	milk-alkali syndrome(高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等)があらわれることがある。観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。	機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿細管でのカルシウム再吸収が増大する。危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類\頻度	頻度不明
代謝異常 ^{注)}	アルカローシス、ナトリウム蓄積による浮腫等
消化器	胃部膨満、胃酸の二次的分泌(リバウンド現象)

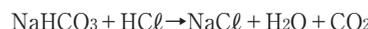
注)これらの症状があらわれた場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため減量するなど注意すること。

【薬効薬理】

速効性、全身性の制酸作用を示す。ただし、胃液のアルカリ化によるペプシンの失活及び発生したCO₂により胃粘膜を刺激して二次的に胃液分泌を促す。胃酸とは次式のように反応する。



炭酸水素ナトリウムは消化管から吸収されやすいため、過剰に用いるとアルカローシスを生じる。また、粘液をアルカリ化することにより局所性の粘液溶解作用を示す。更に尿のpHをアルカリ性にし、尿酸排泄を促進する。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：炭酸水素ナトリウム(Sodium Bicarbonate)

化学名：Carbonic acid monosodium salt

分子式：NaHCO₃

分子量：84.01

pH：本剤1.0gを水20mLに溶かした液のpHは7.9～8.4である。

※【包装】

末：500g、5kg

結晶状：500g、5kg、1g×1050

【主要文献】

※1) 第十六改正日本薬局方解説書 C-2671 廣川書店(2011)

2) A.Walan：Clin. Gastroenterol. 13(2)473(1984)

3) M.R.Islam, et al：Gut 25(8)900(1984)

【文献請求先】

吉田製薬株式会社 学術部

〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10

TEL 03-3381-2004

FAX 03-3381-7728

製造販売元



吉田製薬株式会社

埼玉県狭山市南入曽951